

# 和歌山県の地震

第 2 7 卷 7 号  
令和元年 7 月

## 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3
7 月 28 日に発生した「三重県南東沖の地震」について	・・・・・・・・ 4

## 地震メモ No. 308

南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 8 月 7 日)	・・・・・・・・ 5
------------------------------	------------

- \* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000(行政界・海岸線)を使用しています。

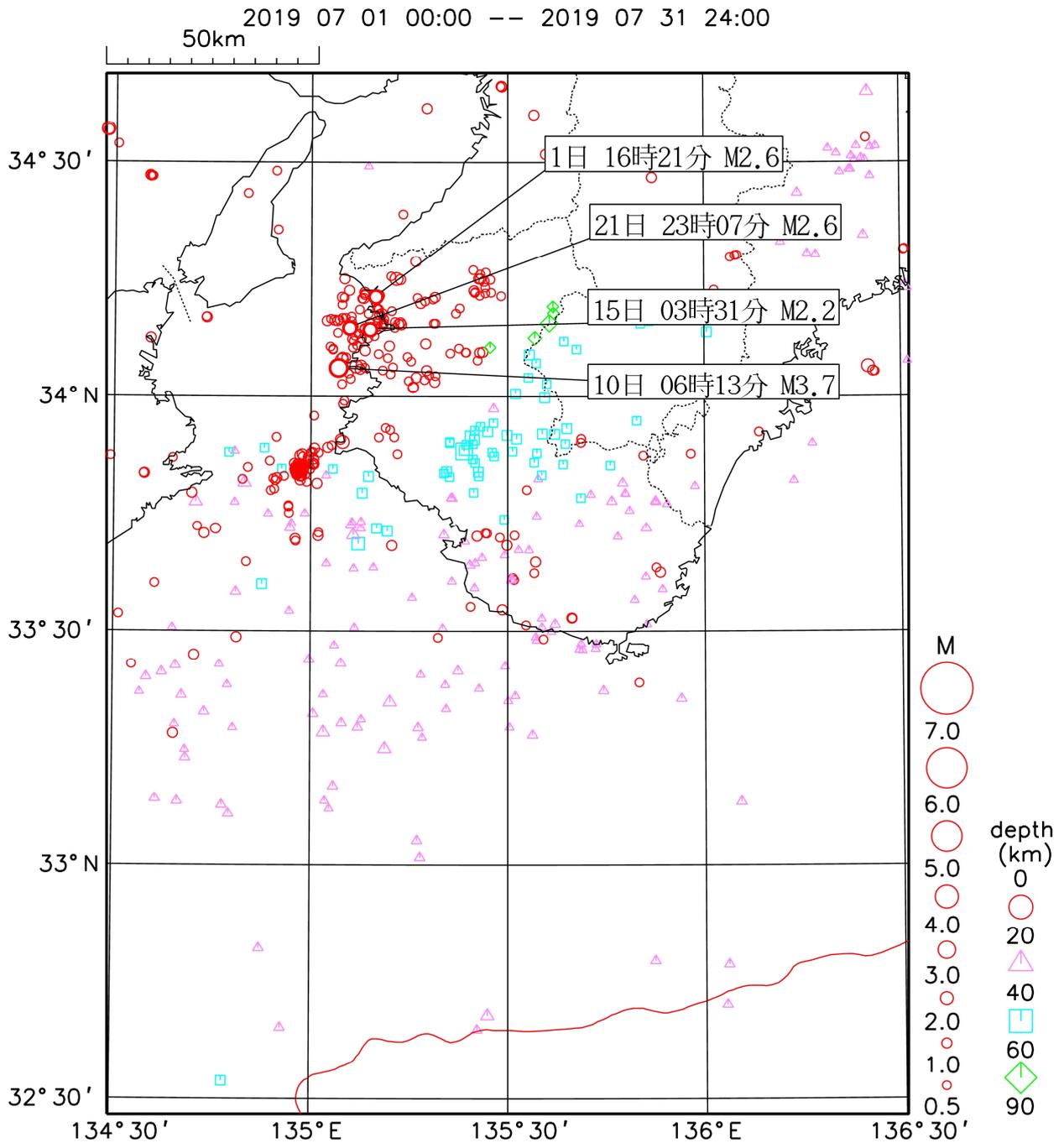
和歌山地方気象台

# 和歌山県の地震活動

2019年7月

和歌山地方気象台

## 震央分布図

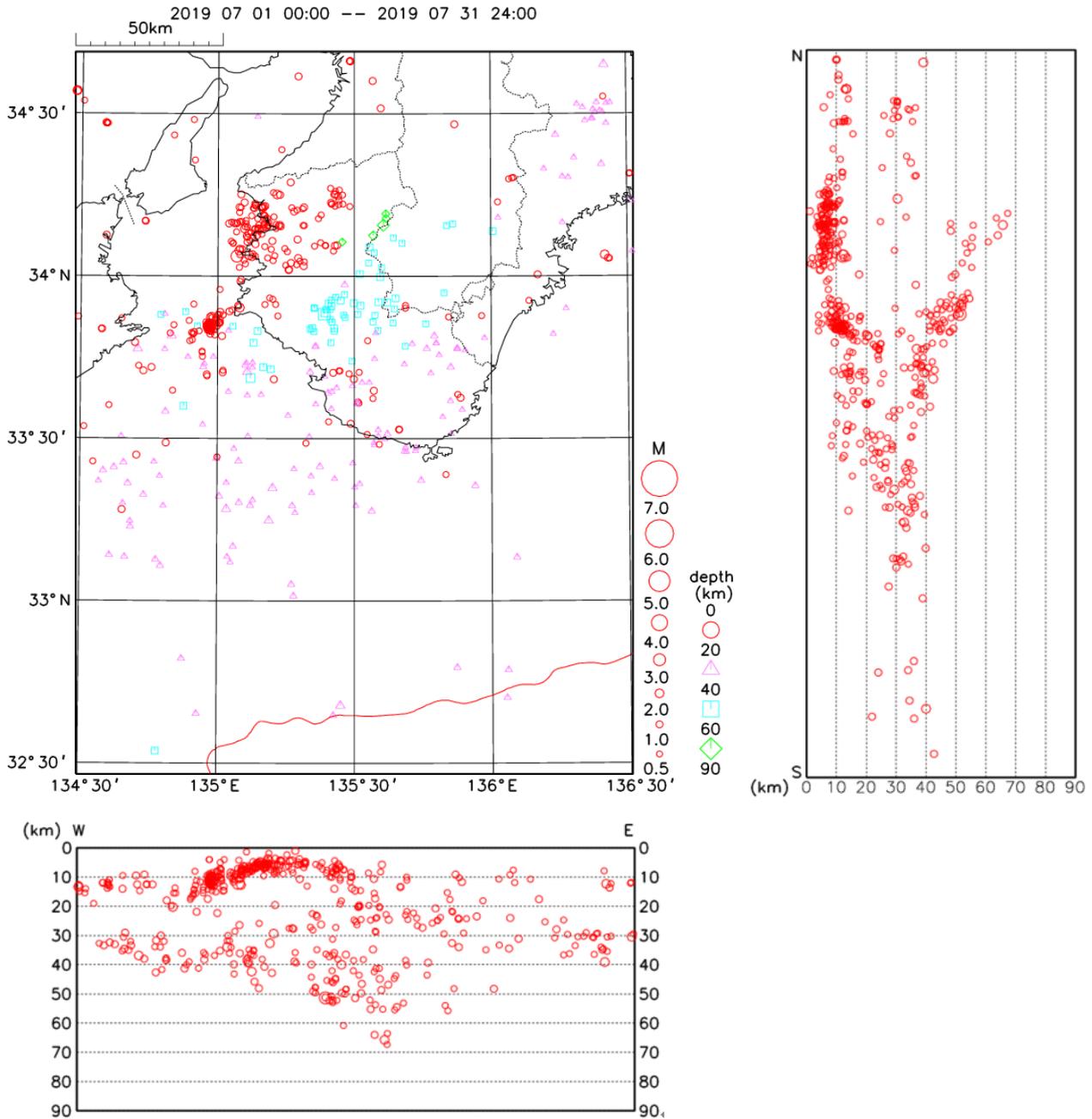


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

## 断面図



## 概況

7月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は24回(前月は13回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、10日06時13分紀伊水道の地震(M3.7、深さ12km)でした。この地震は地殻内で、定常的に活動がある領域で発生した地震でした。

7月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含め4回(前月2回)でした。

また、28日03時31分三重県南東沖の地震(M6.6、深さ393km 震央分布図外)が発生しました(詳細は4ページ参照)。

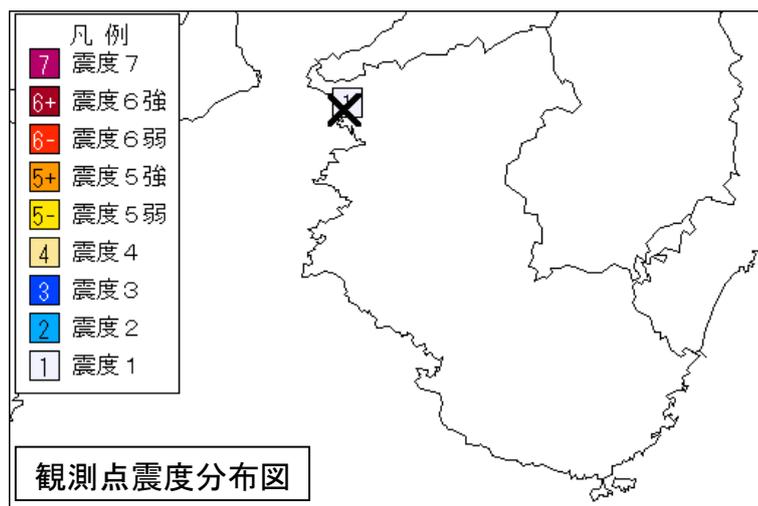
## 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2019年07月01日16時21分	和歌山県北部	34° 12.7' N	135° 09.8' E	7km	M2.6
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*					
2019年07月10日06時13分	紀伊水道	34° 03.6' N	135° 04.1' E	12km	M3.7
和歌山県 震度 2：湯浅町青木*、和歌山広川町広*、和歌山日高町高家*、由良町里*、日高川町土生* 紀美野町下佐々*、有田川町下津野*					
震度 1：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*、海南市下津*、有田市箕島、有田市初島町* 御坊市藪、みなべ町土井、みなべ町芝*、紀の川市貴志川町神戸*、有田川町中井原*					
2019年07月15日03時31分	和歌山県北部	34° 08.5' N	135° 08.9' E	5km	M2.2
和歌山県 震度 1：海南市下津*、有田市初島町*					
2019年07月21日23時07分	紀伊水道	34° 08.7' N	135° 05.8' E	8km	M2.6
和歌山県 震度 1：海南市下津*、有田市箕島、有田市初島町*					

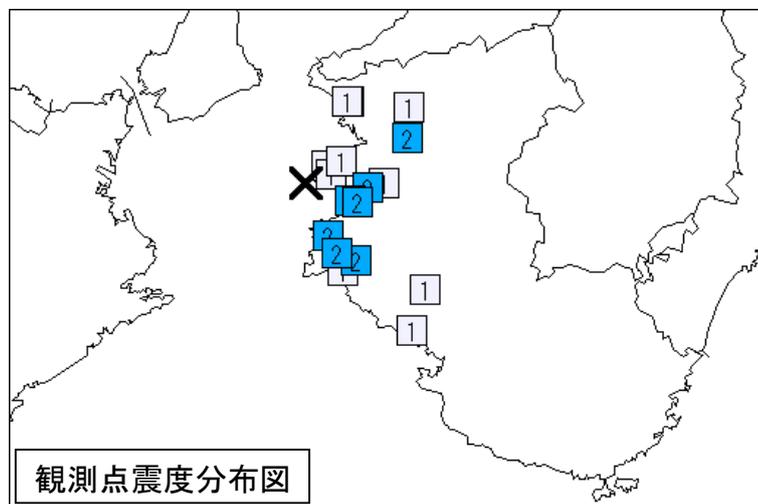
地点名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### 震度分布図（図中の×は震央）

2019年07月01日16時21分 和歌山県北部の地震(M2.6、深さ7km)

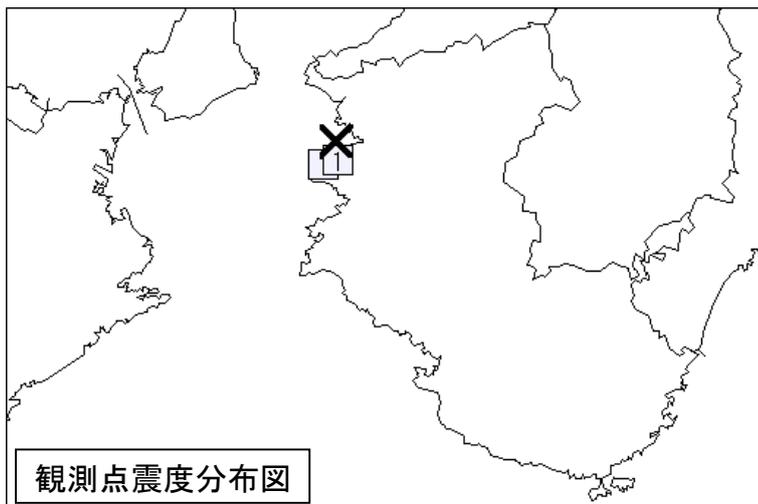


2019年07月10日06時13分 紀伊水道の地震(M3.7、深さ12km)

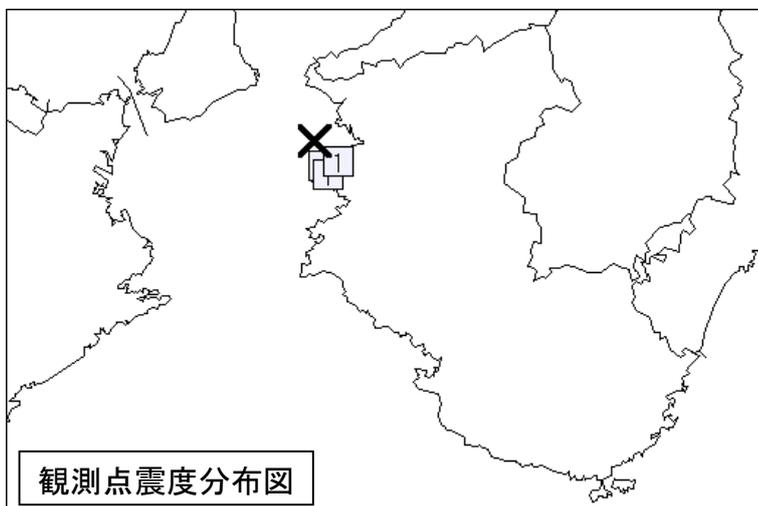


## 震度分布図（図中の×は震央）

2019年07月15日03時31分 和歌山県北部の地震(M2.2、深さ5km)



2019年07月21日23時07分 紀伊水道の地震(M2.6、深さ8km)

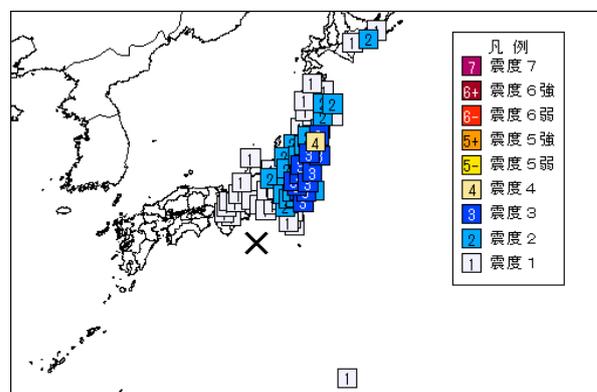


## 7月28日に発生した「三重県南東沖の地震」について

7月28日03時31分三重県南東沖の地震（M6.6、深さ393km 震央分布図外）により、宮城県で最大震度4を観測するなど、震源から遠く離れた東北から関東地方にかけて震度3以上を観測した反面、和歌山県や三重県では震度は観測されませんでした。

今回の地震は、沈み込む太平洋プレート内の深いところで発生しました。この場合、震源に近い場所よりも、震源から離れたプレートの沈みこみが始まる地域の方が強く揺れることがあります。この現象は、『異常震域』と呼ばれています。

『異常震域』のメカニズムは、プレート内では周囲より地震波はよく伝わりますが、それに対してプレートとプレートの間は地震波が伝わりにくく、地震動を感じにくくなるためと考えられています。



## 南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 8月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 紀伊半島北部から東海: 6月23日から7月2日
- (2) 紀伊半島北部: 7月21日から7月29日
- (3) 東海: 8月3日から継続中
- (4) 紀伊半島中部: 8月3日から継続中

### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(4)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。また、周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

2018年春頃から九州北部のGNS S観測で、また、2018年秋頃から四国西部のGNS S観測及びひずみ観測で観測されている、それまでの傾向とは異なる地殻変動は、2019年6月頃から停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNS S観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

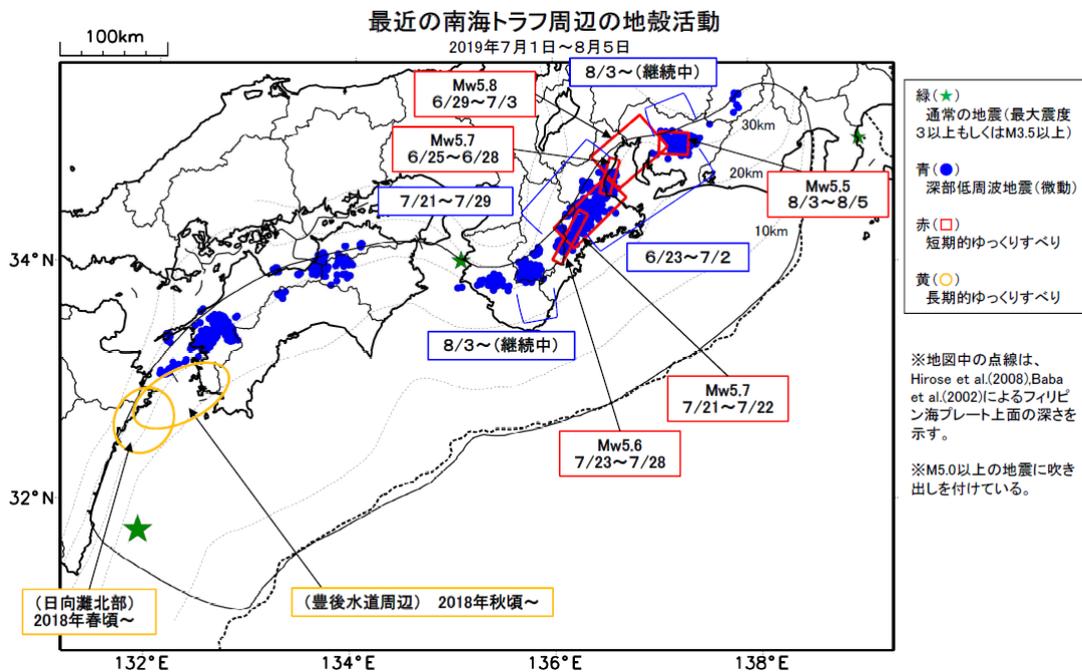


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとりとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項等は以下 URL の資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください